

女ゴコロに響く エイジングケア情報とは？



リビング新聞首都圏
共通編集長
滑川恵理子

40代～50代女性のエイジングケア啓発を目的にした、リビング新聞のキャンペーン「明日のカラダ」「Re美ing（リビング）」では、Webコンテンツを中心に紙面連動特集やセミナーなど、さまざまな展開をしている。そこから見えるアラフィフ女性のココロをつかむポイントについて、リビング新聞首都圏共通編集長 滑川恵理子に聞いた。

ニーズは高いが、知識は意外と少ない アラフィフ女性に情報がしっかり届く場を作りたい

女性にとって40代後半～50代は加齢や更年期によって健康不安が高まる時期ですが、読者と接していると、エイジングケア情報に対するニーズは高いのに、その背景や理屈を意外に知らないと感じます。ここ数年でさまざまなエイジングケア商品も登場しているけれど、新しい話題や正しい情報が読者にきちんと届いていない。そこで、リビング新聞の読者のボリュームゾーンである40代・50代の主婦に向けて、エイジングケア情報の発信をWebと紙面とでスタートさせました。

1つめは、女性の健康をテーマにした「明日のカラダ」。最新の女性の健康ニュースやドクターインタビューのほか、Webでは特に、更年期やアレルギー、女性特有の病気など定番情報をアーカイブして、役立つコンテンツに育てていきます。

もう1つは美容情報を扱う「Re美ing」。肌の状態や白髪などがすこく気になるという読者が多くですね。今、力を入れているのは、化粧品など新商品開発者のインタビュー。成分や機能について聞くことが多いのですが、広告では伝えられない内容もできるだけ客観的に分かりやすく伝える工夫をしています。商品プレゼント付きということもあって注目率が高く、毎回数千件の応募があります。

アプローチが難しい“将来への対策”の健康情報 セミナーなどリアルな体験は強い

健康については“将来の対策”情報を伝える難しさを感じます。中でも更年期は「気にはなるが、私は違うと思いたい」という抵抗感があり、情報を受け入れづらいテーマ。「更年期」は女性ホルモンの低下・閉経という誰もが通過する「時期」。不調の出方は人によって異なりますが、この転換は女性の体に大きな変化をもたらすものです。リビング新聞では、更年期特集にあえて『更年期、必ず来るけど出口はある』という見出しを付け、高い注目率・閲読率を獲得しました。有料の「ホルモンバランス快膳弁当付き女性ホルモンセミナー」も、定員を大きく上回りました。

「Re美ing」では「大人をもっとキレイにする白髪染め教室」と題し、白髪染めの上手な使い方を教わるイベントを実施。「疑問や不安がなくなった」と大好評でした。髪の悩みの深さを知ると共に、的確な情報の提供によって、伝わる、動かせるという自信になりました。こういったイベントは今後も行っていく予定です。

子育てなどで仕事を離れている間に、メイクやヘアケアの進化から遅れてしまった人も多いアラフィフ女性。とはいえパルには海外ブランドの洗礼を受けた世代です。子どもの手が離れ、自らの美容・健康に不安が出てきた今こそ、次なる消費喚起のターニングポイントになりうるはず。知りたい気持ちと加齢への抵抗感との間で揺れる女性たちに未来を照らすエイジングケア情報をどう伝えるか、課題は多いですが、挑戦していきたいと思います。



エイジング・ヘルスケア情報
「明日のカラダ」
<http://mrs.living.jp/tag/karada>

40代以上の女性に向けて、加齢によるカラダとココロの変化について、最新ニュースや基本的な情報を発信。正しく知って、準備・対処をすることで、未来をよりハッピーにできる！という呼びかけを紙面・Webを通じて行っている



エイジング・ビューティーケア情報
「Re美ing」
<http://mrs.living.jp/tag/rebiing>

「もう一度美しく、そしてずっと美しくありたい」をコンセプトに、スキンケアやメイク、ファッションなど、幅広く美の情報を紹介。管理栄養士やネイリストなど、専門性を持つ読者からなる「美探部」が、自らのスキルや取材した情報なども発信

